

## 私の挑戦

栃木県立鹿沼南高等学校 食料生産科 3年 植木 大貴

聞こえてくる息づかい、牧草をほおぼる様子、お腹の張り、目の輝き、糞の固さ…。「今日も元気だな。」頭をなでてから、体をブラッシングし、除糞、歩行運動、そしてエサやり。これらを毎日やるのが私の日課です。私は、鹿沼南高校畜産同好会に所属しており、学校の牛の管理や共進会への出品、農家の視察など幅広い活動をしています。

高校1年生の時、「チャンピオン」という1頭の牛の管理を任されました。この牛を3月の栃木県B&Wショウに出品することになりました。共進会では、乳牛の体型や質を競うので、牛のコンディションを最高の状態に仕上げ、ショウリングでいかに自分の牛をきれいに見せることができるか、管理者の腕にかかってきます。そのため、頭を上げ、背中をまっすぐにしてゆっくり歩けるよう調教と手入れを毎日行っていきます。始めのころは、牛が止まってしまったり、暴れたりしてなかなかうまくいきませんでした。調教を続けていくうちに牛と心が通じていくのが日に日に感じられるようになりました。大会当日、プロの酪農家の方々に混じり、一生懸命牛をリードしました。結果は4位と健闘し、共進会の楽しさとやりがいを感じることができました。また、酪農家の牛に対する思いや、ショウのために牛を仕上げていく細かい飼養管理など学ぶことができ、共進会の奥深さを知るきっかけとなりました。そして何より、酪農の仲間作りをするには絶好の機会だと思いました。

昨年、「チャンピオン」は分娩し、娘ができました。その娘「クッキー」も私が担当しています。母親ゆずりのやさしくおっとりした雰囲気があり、顔もよく似ています。今年の春の共進会では、3位に入賞し、母親以上の素質を感じています。出場したクラス内では月齢が若かったため、上位に入れるか不安でしたが、審査員の方からも「将来が楽しみです。」と褒めていただきました。

自分たちで管理してきた牛が、酪農家の牛と肩を並べて審査され、そこで評価されることは、大変自信となります。共進会を通して、改めて「牛が好きだ」という気持ちとともに「酪農家になりたい」という思いが一層強くなっていきました。

私の家は、日光市で乳牛25頭と和牛5頭の複合経営を行っています。5.5haの飼料畑を利用し、通年でデントコーンを給与しています。搾乳やエサやり、牛舎の掃除、飼料作物一切を父一人で行っています。高校で牛について学んでいくにつれ、「父の後を継いだとき、果たして自分に何ができるのだろう」と真剣に考えるようになりました。「現在の労働力、飼料畑では、大規模化への転換は厳しい。」「質を高めた経営を我が家は目指していくべき」と、次のような経営目標を立てました。

一つめは、質の高い牛群作りです。泌乳能力が高く、長命連産に耐えられる牛を多く

飼育することです。「チャンピオン」の祖母は、栃木全共で優等賞に入った良血であり、それが「チャンピオン」や「クッキー」にもしっかりと遺伝しているんだよ、と先生から教わりました。優れた能力や体型は、脈々と後世に引き継がれるもので、血統の重要性を知ることができました。我が家にとって、良い牛群を作る近道は優れた血統を導入することだと感じています。その交配については、ショウカウばかりを追うだけでなく、体細胞スコアや在群期間の形質もよく考えた上で決めていきます。また、共進会で肢蹄の重要さを痛感し、蹄の管理にこだわり、年2回の削蹄を実施したいと考えています。さらに、乳タンパクやMUNの数値など乳検データを積極的に活用しながら、適切な飼料給与を行うことで、現在の平均産次数を2.9産から3.4産へ伸ばします。これにより、年間1頭あたりの増収を期待しつつも、経営の中で初任牛や搾乳牛が余剰となれば個体販売も可能となったり、低能力牛を積極的に淘汰したりするメリットがあると考えます。健康で、長く牛舎で稼いでくれる牛作りの取り組みが、質の高い牛群作りにも繋がっていきます。

二つめは、さらなる自給飼料の確保です。昨今の飼料価格は、円安の影響を受け高値で推移しており、多くの酪農経営を圧迫しています。我が家も乾草の購入量が多く、例外ではありません。自給飼料を増やすためにも、我が家で食用米に利用している2.5haの水田で飼料稲のホールクロップサイレージを生産します。さらに、近隣の転作田も借り入れし、10haの作付けを目指します。飼料自給率向上により、足腰の強い経営を行いながら、堆肥も自家消費ですべて還元できる仕組みを達成したいです。

これら実現のために、高校生活で大きな取り組みが二つあります。一つは、秋に行われる関東B&Wショウに「クッキー」と出場することです。牛の管理技術はもちろんのこと、さらに良い牛を見分ける審査眼を身に付け、将来の牛群作りに役立てたいです。そしてもう一つは、飼料稲の研究です。現在、学校で「たちすずか」という飼料米の給与試験を行っています。粗飼料分析値では、チモシーに近い栄養価をもつものの、不消化モミによる栄養価のロスなどが課題です。そこで、不足するエネルギーを濃厚飼料で補い、通常の牧草と代替えしても繁殖成績に影響しないか検討中です。専用機で収穫したホールクロップサイレージは、梱包密度が高く、発酵がよいため、嗜好性は良好で、取り扱いも容易です。今後、生産と利用が増えていくことが考えられ、その適切な給与方法の確立が急がれます。この研究を通して、少しでも利用について理解を深めたいです。

「チャンピオン」との出会いが私を変えた。夢は大きく膨らむばかり。これからも私の挑戦は続きます。